

第二分科会 外交・安全保障

目指す姿

来るべき動的な多層連携の時代において「世界の世話人」として国際秩序を維持する
 日本に住みたい・働きたい・訪れたい、一緒に仕事したい国（高い求心力のある国）
 国際秩序の安定化に中心的に貢献する国（対話力・行動力のある国）

共感できる価値感があること

- ・自由、民主主義、人権尊重、法の支配
- ・仁義礼を基本とした文化、伝統
- ・日本人らしさ（真面目さ・優しさ、敬意を払ったアプローチ、相手への共感力）

達成・維持すべき事
（4つの国益）

安全であること

- ・主権・独立の維持と領域の保全
- ・国民の生命・身体・財産の安全

繁栄していること

- ・継続的な経済発展

世界に信頼されていること

- ・国際社会への貢献
- ・新興国支援
- ・世界各国と意思疎通が可能

提言

海洋監視の在り方

国際連携の在り方

防衛技術、防衛産業の在り方

台頭する中国への対応

新分野、技術・データ

の脅威への対応

国力の失速による国家の求心力の低下・国際秩序の不安定化への危機感

現状の課題

国内環境

- ①狭い国土と広大な領域
- ②海外に依存する資源
- ③低い経済成長
- ④科学技術力の低迷
- ⑤限定的な安全保障基盤
- ⑥弱点のある法整備
- ⑦問われる国民の安全保障に対する意識

国際環境

- ①パワーバランス・マーケットの変化（中国、インド、ASEANの成長）
- ②経済連携、貿易協定の複雑化・重層化
- ③宇宙・サイバー領域等新領域での競争激化
- ④脱炭素、パンデミックなど地球規模課題への協調

我が国を守り・世界に貢献したいという国民・国家の強い意思と行動

- ・我が国の歴史の理解
- ・我が国の伝統・文化の継承と国内外への発信力
- ・誠実さ・公正さ・利他の精神をベースとした行動力・対話力

共感できる価値感があること

心

高い求心力 世界の世話人

技

知恵と技術で競争・協調し、
経済発展を通じて世界貢献

- ・主要分野における不可欠技術
- ・したたかさ

繁栄していること

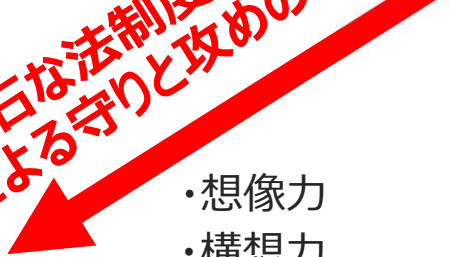
世界に信頼されていること

盤石な法制度・仕組み
による守りと攻めの基盤

- ・想像力
- ・構想力
- ・実行力

安全であること

体



1. 海洋監視の在り方

あるべき姿

抜け道・切れ目のない海洋監視の実現

2. 防衛技術、防衛産業の在り方

あるべき姿

適切な防衛力の明確化と整備の実行

防衛装備品の自国開発力を磨き
国産か共同開発で製造

高い防衛技術力による海外でのブ
レゼンス維持

とるべき戦略と具体策

グレーゾーンを廃し、対処の準備と抑止を実行

- ①「紛争の閾値以下」での対処方法（協調と競争）の明確化
- ②前面海保&後方海自を確立し海保の強化と海自の支援を充実

国境離島で民間力と技術力を活用

- ③国境離島をグレード分けし、各技術の最適組合せを実行
- ④国民参加型離島沿岸監視サイト “しまもる”の構築

必要な防衛装備とその費用を示し省庁横断で検討

- ⑤見通せる将来の脅威に対する「あるべき防衛力」の明確化とその整備をシーレーン防衛費・防衛納税の創設により財源確保
- ⑥衝突を未然に防止する外交施策や非軍事的な保安体制などを含めた「外交・安全保障費」を省庁横断的に議論
- ⑦予備自衛官の採用拡大への仕掛けと仕組みを構築

防衛産業をイノベーションを生みやすい環境に

- ⑧研究成果を防衛や他分野に反映できる仕組みや体制を整備
- ⑨科学技術成果の安全保障利用検討を防衛装備庁（外部人材）、他分野への展開戦略を科学技術振興機構が実施
- ⑩競争的資金研究成果を検索システム“SATETO”の構築
- ⑪防衛装備品の発注方式の多様化（契約制度、落札者選定精度）
- ⑫官民連携で装備品の海外移転を推進（JADIの活用）
- ⑬経済界との定期的な意見交換による防衛産業活性化策の検討

教育・維持を含むパッケージ型で装備品を海外移転

- ⑭ディフェンス技術を中心に親日国にパッケージ移転

3. 国際連携の在り方

あるべき姿

我が国が中心となって国際秩序を構築・維持

多国間連携でリーダーシップを発揮

- ⑮ 複数レイヤー連携を通じて我が国との関与国を増やし、同国事情に合わせたコントロールで国際秩序のバランスを維持
- ⑯ ハードソフト双方の質の高いインフラ展開でFOIP賛同国を拡大
- ⑰ アフリカへはTPP、日EUEPAを軸にパートナー国と進出

協調分野では技術を通じて高い存在感を発揮

- ⑱ 脱炭素やデジタルの政策協調を急ぎ、EV、水素での技術リード、6G等の新分野でのルール作りを主導。ASEANが脱炭素を導入した際には日本がベストパートナーを堅持。パンデミック時の多面的な協調スキームを構築

新興国へは相手に寄添いながら影響力を確保

- ⑲ ODAや進出日本企業支援を通じて、相手国独自の社会課題を解決し、同時に技術移転と相手国の人材育成も行うことで、持続的関係を構築

4. 新分野・技術データの脅威への対応

あるべき姿

国際ルール並びに国内法と体制整備の構築

宇宙利用については国際ルールを早急に具体化

- ⑳ 宇宙交通管理の中で我が国が主導的に国際ルールを構築

サイバー戦については国内法整備と体制づくりを

- ㉑ 武力行使・犯罪の範囲を明確化し、シームレスな法・体制を整備。サイバー分野における日米同盟の役割を明確化
- ㉒ サイバーによる武力行使に備え、陸海空全体でマルチドメインとしての体制を整え、あらゆるシナリオへのシミュレーションを実施

「経済安全保障」を国家安全保障戦略の中に明確に位置付け、法整備を一気に

- ㉓ 「技術保全」「サイバー防衛」等を再定義して経済安全保障戦略を構築し各種政策を一気に立案・実行

5. 台頭する中国への対応

あるべき姿

国際ルールに従い、決定的に対立することなく競争と協調しつつ、双方が発展・成長する関係

競争

主権や領域だけでなく経済安全保障も含め、守るべきことは自国で守る体制を整え、価値を共有する国々と連携し対応する

- ②4 価値を共有する国と連携し、法の支配のもと自由で透明性のある国際秩序を構築・維持
- ②5 サプライチェーンの最適化を継続

協調

中国の課題解決、国民の満足につながる政策や企業活動を通じて国民の日本ファンを増やす

- ②6 脱炭素分野での多国間連携・技術協力
- ②7 FOIPと一帯一路のメリットが一致する分野や地域での連携
- ②8 中東シーレーンの海賊対処や国連平和維持活動等の国際協力での連携・協力
- ②9 日中での技術標準の策定（例.EV車プラグ）
- ③0 農民の所得向上に向けた技術・仕組み・ノウハウの供与
- ③1 高齢化社会先進国・自然災害最頻国としての経験を踏まえた日本式課題解決の輸出
- ③2 食料・水供給力確保への支援
- ③3 継続的な観光・文化交流
- ③4 中国の法律・風習を熟知し中国ビジネス展開を継続